

関東ふれあいの道を歩く(埼玉)⑥花の美の山公園を訪ねるみち

2020年12月16日 池内淑皓

2020年(令2)11月2日(月)曇り、今にも雨が降りそうな天気。

GO TOトラベル二日目、今日のウオークは「⑥花の美の山を訪ねるみち」であるが、丁度この山の麓から日本で初めて「銅」が産出した記念すべき史跡があるので、午前中訪ねてから 山裾の尾根を一つ越えて、⑥花の美の山コースの起点まで歩き、コース本線を歩く事にした。



日本で初めて「銅」が産出した場所の概念図(看板)



今日の鉄道最寄り下車駅は、秩父鉄道 和銅黒谷駅



和銅黒谷駅、巨大な自然銅の岩が置かれている



国道に出て、案内板に従って歩いて行こう



20分程歩くと美の山の山麓に入って、崖道を行く



708年(景雲五年)ここ武蔵の国秩父郡から銅が産出し、奈良の都に献上された時の元明天皇は銅の産出を大いに喜び、年号を「和銅」に改めた



ここが当時の採掘跡で、右の崖秩父古生層と、左の崖第三紀層の断層面に銅が噴出したほぼ純銅に近いものであったと言う。この一かけらが麓の聖神社にある



少し離れた場所に銅精錬所跡があった



中世には武田信玄がここで銅を採掘し、



江戸時代に入ると、徳川家康が大久保長安に命じて銅を掘らせた。
寛永通宝(1624-1643)はこの銅が使われたと云う。



この坑口は江戸時代のものであろうか、鑿で綺麗に掘られている



溶鋳炉の模式図



秩父和銅を用いて、初めて銅銭が作られた「和同開珎」(日本最古の銭は富本銭で鉄製)



麓には「聖神社」が鎮座している。銅が発見されると、採掘された和銅 13 個をご神宝とし、祝典のため山中に建てられたお宮を麓に移して、お祀りしている。

⑥花の美の山を訪ねるみち

和銅採掘遺跡を見学して、この山の中腹から尾根越えをして、コース⑥の高原牧場入口バス停に向かって歩く。



(首都圏自然歩道連絡協議会)

⑥花の美の山公園を訪ねるみち概念図と、行程図



ホテルの部屋から見た黎明の秩父駅と遠景美の山。美の山は秩父では珍しく独立峰だ



昨日ゴールした高原牧場入口バス停まで歩いて 10:10 到着。ここから⑥コースが始まる



まずは「常楽寺」に参拝。江戸初期の築であるが焼失し、嘉永五年(1865)本殿が再建された。
真言宗のお寺で、本尊は不動明王



続いて二十三夜寺へは、農家の庭先を通り抜けて北に向かう



麓の集落から見た美の山



「二十三夜寺」秩父 13 霊場の一つ、正しくは真言宗豊山派の寺院。毎月旧暦 23 日を縁日としていることに由来する。この日は護摩行と月礼拝(二十三夜の月待)が行われている



道は境内を通り、本堂の脇から寺の背後に回り山に入る



二、三山上集落内の生活道路を通り抜けて、美の山に向かう



最奥の美の山集落を通れば山道に入り、登山道となる



尾根を越え、数度浅い谷を渡ると



美の山公園の駐車場前に出る。春になると一万本の桜が咲き乱れ、関東の吉野山とも呼ばれている。今日は時季外れで、うら寂しく、今にも雨が降りだしそうな寒い陽気、歩く時期が悪かった



広い山頂にはビジターセンターがあり、ウォーキングを含む多くの資料が準備されている



雨がポツポツ来たので「菘神社」経由で、秩父鉄道皆野駅に下山することにした



親鼻方面への尾根を巻くように、高度を下げる。この辺りも銅が採れそうな山塊



美の山から小一時間程で秩父鉄道「皆野」駅に着く



14:16 発の秩父行きで帰った

[参考タイム] 和銅黒谷駅(7:10)→和銅遺跡巡り(7:40-10:10)→高原牧場入口(10:10)→
二十三夜寺(10:35-10:40)→美の山公園(12:15-12:30)→葦神社(12:45)→皆野駅(13:40-
14:16)→西武秩父駅(14:40)

この項完

「関東ふれあいの道を歩く(埼玉)⑦長瀬の自然と歴史を学ぶみち」に続く